

銅賞 菊池 翔太君

北海道科学大学工学部建築学科 「解体のふるまい」

地方の街はどこも同じであるが、少子高齢化となり加速度的に過疎化が進行している。この計画の北海道蘭越町目名地区も例外ではない。そんな地はいつしか空洞化も併発する。その中であって地区最大の空洞化空間である「農協米倉庫」のコンバージョンがこの計画である。建築構造物としても持続可能である事に着眼し、ここに街の人々が集まる複数の公共空間をボーダー状に連続していく、それは街のアーカイブ的空間でありどこか懐かしくも感じる。そうする事により未来へつなげる記憶装置ともなり得る。街の建物は次第に消滅していってもこの街の記憶はこの倉庫に宿り続ける。

この地区に残る建物を使用し人々の思や経験、視覚を封印しながら、社会現象に対応すべくこの計画を賞賛し未来に託したい。
(文責：小西 彦仁)

